

「にじのきらめき」栽培ごよみ

茨城県農業総合センター
2024年5月作成

多収・良食味米品種「にじのきらめき」標準作業手順書第1版（農研機構）より一部引用

時期	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作業	育苗箱施薬 除草剤散布 浸種 催芽播種 施肥 移植 代かき						病虫害防除 穂肥						カメムシ防除						収穫 乾燥 調製			土づくり		
生育ステージ (5月上旬移植)	● 播種 ○ 移植 2.2~2.5葉期 活着期 分けつ期						△ 穂肥 幼穂形成期						◎ 出穂期 登熟期						▼ 落水 ■ 収穫 成熟期			<ul style="list-style-type: none"> ・堆肥の施用 ・稲わらのすき込み ・耕深15cm以上の確保 		
水管理	入水 浅水(活着・分けつ促進)						中干し						間断かんがい						落水					

収量・品質目標	
収量	660kg/10a
穂数	400本/m ²
千粒重	23.5g
整粒歩合	80%

栽培管理のポイント	
1.	多収のためには、適正な施肥設計を行う（土壌診断の実施）
2.	健全種子を使用し、しっかりと浸種する（浸種積算温度:120~135℃）
3.	健苗育成・適期移植を心がける
4.	寒さに弱いため、穂ばらみ期の低温には深水管理を実施する
5.	早期落水を防ぎ、適期収穫を心がける（出穂後の積算気温:1,100~1,240℃）
6.	雑草防除や病虫害防除（斑点米カメムシ）を徹底する

●育苗	
①浸種・催芽	<ul style="list-style-type: none"> ・浸種時の水温は10~15℃とし、浸種積算温度は120~135℃を目安とする。 ※「コシヒカリ」よりも1日程度長く浸種を行わないと、十分でない場合がある。 ・催芽は30℃、24~32時間でハトムネ状態にする。
②播種	<ul style="list-style-type: none"> ・1箱当たりの播種量は乾籾で175g（催芽籾で220g）、10a当たりの苗箱数は15~18箱程度とする。
③育苗	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗日数が「コシヒカリ」よりも3~5日程度長い場合がある。
④播種後の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・もみ枯細菌病等の発生を抑えるために30℃以下で管理する。

品種特性												
品種名	早晩性	草型	移植期(月日)	出穂期(月日)	成熟期(月日)	稈長(cm)	収量(kg/10a)	千粒重(g)	耐倒伏性	耐病性		穂発芽性
にじのきらめき	中生	中間	5.12	7.28	9.12	73	715	23.8	強	強	中	難
コシヒカリ	中生	中間	5.7	7.25	9.6	96	589	21.1	弱	弱	弱	難

●水管理	
・	移植後は2~3cmの水深を維持し、水温を上げ生育の促進を図る。
・	中干しは目標穂数の8割（目標穂数が400本/m ² の場合320本/m ² ）を目安として開始し、田面にひび割れが出来る程度に行う。その後は間断かんがいとする。
・	耐冷性が弱いため、穂ばらみ期（出穂14~7日前）に低温が予想される場合は10cmの深水管理とする。
・	落水は出穂期後30日以降とし、用水が早期に止まる時は直前に溜めておく。

- (1) 試験年次：令和3年~令和5年
- (2) 試験圃場：茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室（龍ヶ崎市大徳町；中粒普通灰色低地土）
- (3) 施肥量(10a当たり) 「にじのきらめき」基肥：窒素9kg、リン酸9kg、カリ9kg、追肥：窒素3kg、カリ3kg
「コシヒカリ」基肥：窒素6kg、リン酸6kg、カリ6kg、追肥：窒素3kg、カリ3kg
- (4) 栽植密度：30cm×22cm(15.1株/m²、坪50株)

●施肥	
・	基肥窒素量は「コシヒカリ」栽培の約1.6倍程度を目安とした栽培を推奨する。
・	穂肥は幼穂形成期の出穂前25~15日頃（幼穂長1~30mm）に3kgN/10aを目安に施用する。
【例】	基肥追肥体系の「コシヒカリ」の施肥量が、 基肥6kgN/10a + 出穂前15日頃に穂肥3kgN/10aである場合、 「にじのきらめき」では、 基肥10kgN/10a + 出穂前20日頃に穂肥3kgN/10a

●種子の準備	
・	薬剤や温湯消毒（60℃ 10分）により種子伝染性病虫害の防除を必ず行う。
・	種子量は3~3.5kg/10aを目安とする。

●田植え	
・	移植適期は5月上旬~中旬とする。
・	栽植密度は坪当たり50~60株を基本とする。植付本数は株当たり4~5本、植付深度は2~3cmで行う。

●収穫	
・	出穂期から収穫までの日数は「コシヒカリ」より4~5日程度長くかかる。目安は、出穂後の積算気温1,170（1,100~1,240）℃、帯緑籾率10%、出穂後約46日。
●乾燥・調製	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥は高温・急激乾燥を避け、水分15%に仕上げる。 ・調製は1.85mmの篩目を使用する。

●その他注意点	
・	白葉枯病に弱いため常発地では防除を徹底する。
・	縞葉枯病抵抗性品種だが、本病の発生が多い地域では、媒介虫のヒメトビウンカを増やさないため、薬剤防除を実施する。
・	いもち病や紋枯病の発生を確認したら防除する。
・	カメムシ防除は出穂期~乳熟期に殺虫剤を散布する。